広報 かじき

全ご家庭に、もれなく配布

第167号（特集）

45．4．14発行

発行　鹿児島県姶良郡加治木町役場

編集　総務課

印刷　吉屋印刷所

一年生

町内の六つの小学校では四月六日いっせいに入学式が行なわれ、全部で二百八十三人ものこどもたちが、一年生として入学しました。

ご存じのように、都市への人口流出が激しい今日ですが、当町でもこの過疎現象のあおりをうけて児童、生徒の数は年々、少なくなっています。

次の時代をになう加治木のこどもたちが、のびのびとした教育の場で、十分な教育効果が平等に得られるようにするため、町では学校統合審議会を設けて、町内の学校統合について調査研究をすすめています。

町では、町内の一年生全員に黄色い帽子をプレゼントしました。こどもたちが事故なく元気で学校へかよえるよう祈っています。

一年生も元気に兄ちゃんたちと学校へ

時勢に即応した町づくり

交通網の整備など四つを基本に

さる三月十二日に開会された、定例第一回町議会において曽木町長は、昭和四十五年度の一般会計および特別会計予算の提出にあたり、つぎのように町政執行の所信を表明しました。

町長が施政方針を説明

昭和四十五年度の本町一般会計ならびに国民健康保険および上水道事業の二特別会計の予算の案を本会議に上程せられまして、ご審議を仰ぐに当たりまして、私は所信の一端を披歴し、本予算内容の概要を、ご説明申し上げ、各位のご検討を煩わしたいと思います。

昭和四十四年度も、あとわずかとなりましたが、年度当初にお約束申し上げました事項については職員一致して努力いたしました結果、また議会のたゆまざるご活動、執行に対するご叱咤、ご協力と、町民各位のご理解により、ほぼ所期の目的達成ができたと信ずるわけでございますが、皆さまのお力添えに対して心からお礼を申し上げます

〈総　論〉

新年度の国の予算は七兆九千四百九十七億円と、昨年に比して一七・九パーセントの増、県の予算は九百七十三億四千百万と十七・四パーセントの伸びを示しております。このような予算からみますと国はもちろん、本県も経済は、やはり引き続き高度の成長をなして行くものと考えられます。

この中に本町々民各位もよく努力し、それぞれこの経済伸張の渦の中に、実績をあげてくださっておりますことを感謝申し上げます

知事が先日、県議会で明らかにされました施政方針をみますと、

①交通施設等の発展、基盤の整備

②特性をいかした産業の開発

③魅力ある地域社会の建設

④教育の振興と青少年の健全育成

の四つの重点政策を目標に掲げておるようでございます。本町としましても、ことしはこの施策に応じて計画を立て、その方向を誤ることのないよう、また、大きく飛躍する年であらしめたいーと、念じます。すなわち私は、

①道路、交通運輸網の整備

②農業、商工業の近代化への推進

③社会福祉の増進

④教育の徹底

と、いったような事項を掲げて、予算的にも可能な限りの配慮をしながら、本町各機関の総力をあげて、かかる時が来たと存じ、この目標のもとに計画を立てた次第であります。

ご承知のとおり本町は、いよいよ陸海空の交通の要衝に発展する第一歩は踏み出されました。しかし、これが完全な且つ早期の実現には、前途にきわめて困難な問題をはらんでいると思います。また経済伸張の中に、住民の生活と、その福祉を守り、次の時代をになう町民の健全な成育をはかりながら、この郷土を、ただの地図の上だけでなく、すべての面で文字どおり県の中心的役割りを果たすようなところとするには、たいへんな苦心と努力が必要と思います。お互い、あらゆる知恵をしぼり力をつくして、時勢に即応した町づくりに励みたいと考えます。

1 道路、交通運輸網の整備

縦貫道の加治木町内分は、恐らくこの議会中に発表されると思いますが、本年度中に買収にかかり来春着行となると思います。これが用地の獲得に本町としても、相当な協力をしなければならないわけですが、これもそう簡単ではないだろうと思います。

さらに加治木以北も引き続いて計画が具体化されると思います。よってこれがために、県や公団と手を取りあいながら、また住民の立ち場にも立って、問題の解決をはかる必要がございます。

□

加治木港の工事も三年目を迎えますが、舌出しの東側の埋め立ては、だいたい終わったようですし本年は工事費三千万円が見込まれています。

港線の改良も行なわれますが、初音旅館から先の方の舗装がなされようとしています。

□

また、空港関連道路も加治木分の一部、すでに着工、今後急ピッチで用地買収から工事が進められ経費として四十四年度予算が一億数千万円繰り越されているようです。かたや川内・加治木間の道路について、県は二千万円に近い調査費を新年度に計上しておりますので、やがて具体化します道路、あるいは国道十号線のバイパスや日豊線の電化複線化などの関係もありますし、本年度から空港や加治木インターチェンヂを中心とする交通運輸の面は、活発な動きが展開されることは、はっきりしております。

□

新都市計画法の定めによりまして、本町の市街地区域、用途地域の指定、街路網の変更など、諸計

定例第一回町議会 3月12日の本会議場から

画を樹立する重要な時機に到達しております。

□

これに伴ないまして大小の企業なり、関連住宅なりと、加治木はつぎつぎに、また一挙に多くの問題をかかえ込みまして、これが整備解決には容易ならぬものがあるように思います。土木関係は、四十四年度末の補正予算関係に計上いたしました機材購入等の仕事とあいまって、失対事業とあわせ、本町内の道路整備に、いちだんの成果をあげる覚悟でおります。

2 農業・商工業の近代化への推進

従来、農業の振興については、最も苦心し、ようやく農業基本法の制定を見ましたので、これに基づき農政事業等を取り入れ、卵、蚕、柑橘など基幹作目も決め、その推進をはかりながら畜産、そさい、煙草、などの換金作はもちろん、米つくりにはとくに意を用いまた、農家はよく努力して今日はどうにかこれによって生活する道を求めるようにいたりまして、その所得も十分ではありませんが、いずれ確保できる方向へ向かって進んでまいりました。

しかしながら米については、ご承知どおりの経緯から、本町として先日五十一ヘクタールの減反、二一〇・四トンの産米をおさえる、ということとなりました。目下この生産調整対策には非常に苦慮しているところで、米の増産に励んできた農家、これを指導して参りました町や農協が、これをこのまま放置しておきますと、やがて食管制度の破壊ということになりかねますので、本町としましても、三月末までには部落座談会等を続け、この減反の消化をはかるとともに転作、休耕により、ぜひとも米作農家の生活が行きづまらぬよう経営指導、あるいは総合農政に十分の手をつくすほか、ないと考えます。

農業指導については、高生産性農業をめざして農地の流動化をたかめながら、規模拡大をはかり、所得の向上をはかることに留意しなければならないと思うわけですが、労働力の少ない農家、耕地の拡大ができない農家は、可能な限り兼業農家として生きられるよう適当な企業の誘致も引き続き考える要があると思います。

今日、本町の農家戸数は、二千百二十四戸となりまして、その数は五年前に比し八十三戸の減となっています。専業農家は五年前に八百三十二戸あったものが、六百十九戸となり二百十三戸も減少しています。そのかわり第一種兼業は、二百五十七戸が三百十二戸にふえて、五百六十九戸になっております。

また、反別の方からみて見ますと五十アール未満が六三パーセントていど、五十アール以上一ヘクタール未満が五百七十九戸で二七パーセント、一ヘクタール以上が二百十戸でわずかに一〇パーセントとなっているようであります。

これを見ますと、耕作面積はその拡大ということは限度に来ているように思うわけでありますが、耕地面積の少ないかたがたが、遠い所に出稼ぎに行かれ、これには非常に問題がございますので、これを少なくするためには、ぜひ中高年層でも働ける場を近くに用意することが、肝要だと考えているわけでございます。兼業の育成は農地に時間と労力を節約できますので基盤を整備し、重要農道等の改良に、本町としても予算を増加して力を注ぐことにいたしました

□

特に懸案の西別府、小山田間の横断道路も四十六年度には絶対実現させるつもりで、先頃からいろいろ手をつくしておりますが、本年は特にその、いっさいの準備を整えるための少しでございますが予算を計上しております。

□

次に交通の整備や経済の発展に順応するよう、本町の商工業も近代化への工夫と努力が望まれるところであります。本町の今日までの立地的立ち場、また町民構成の関係から、わりに本町商工界は郡内で優位な地位にありましたので今日はなおいっそうの研究が必要であると思います。

いろいろ企業の進出の可能性があることは前述のとおりでございますので、同種の企業、同種の競争はいっそう激化すると思われますが、本町としても一方で人口確保と購売力の培増をしながら、商工関係団体と力をあわせて、その発展を期してまいりたい覚悟でございます。

3 社会福祉の増進

従来、政府や県、本町でもさけばれております児童手当について私は、本年は国や県で具体化するものと見ておりましたが、ついに見送られましたので、せめて本町分でも、国が実行するまで、たとえ一か年でも、また額はわずかでも第四子以上のある方に支給することにいたしました。物価高の折ですので、何のタシにもならぬかも知れませんが、バター一本でも差し上げて健全な成長に、少しでも、お役に立てば本望と存じます

またこれは教育関係にもなりますが、錦江校に四十名の幼児のための幼稚園を開設いたしまして、さらに、川野保育園に定員三十名をふやして九十名とし、また、できるだけ、あちこちの児童遊園施設を少しでも整備しながら、幼児対策に配慮いたすことにいたしました。

□

本町は乳幼児の死亡率が県の平均よりも高い状況にありますが、太陽の子運動も展開されております。健康な子どもを産み、じょうぶに育てることを、保健所や医師会ともよく提携しながら、また、妊産婦の死亡率も同様でございますので、とくに保健、栄養等に、とくに力を注いでいきたいと考えております。

□

お年寄り関係では、従来、加治木温泉の入浴券を差し上げるということは、従前どおり引き続いて行ないたいと思います。敬老年金については議会のご進言もございましたし、また時勢も考えまして年齢と額を改めるということにいたしました。

なお本年は、高井田に特別老人ホームも出来ますので、寝たきりの高齢者のかたがたの福祉に役立つわけでございます。また家庭で病床にあるかたに、追加予算の方とあわせまして、特別なベッド七台を買い入れて、お貸しするということになりました。

また先程、ご報告申し上げましたように、じんかい（塵芥）焼却場も皆さまのお力添えで、できることになりますので、環境衛生の向上には十分、対処していきたいと考えております。

4 教育の徹底と青少年健全育成

次に教育関係を申し上げます。本町の教育は、関係者各位のたいへんな努力と協力によりまして、最近きわめて喜ぶべき状況に向上してまいりましたことは、県当局はもちろん、県内外の各方面で認められております。私は本町行政を整えて、学力、体位と根性を育成してもらい、りっぱな児童生徒を育て上げ、上級学校や社会に送り出したいと思います。

また、社会教育および社会体育も、よくその努力が積み重ねられてきたと思います。目には見えませんが、たしかに文化的な面とともに効果は現われていると認めます。しかし、町民性として、もろさやかたくなさも、まだ持っていまして、努力の余地も多分にありますので、今年はマイクロバスも公民館に備えさせ、新しい公民館施設とともに、地におろした内容ある活動を続けてもらって、市民性を涵養して、同時に町民のからだと心の健康を進めて行きたい考えでございます。

青少年のことは最近、場所によってたいへんな問題も多い例もございますが、その健全な育成が望まれる今日でございます。グループ育成により青少年団体等が、お互いに切磋琢摩して、自主的な活動の中に育成されるように仕向けることが必要ではないかと思います。最近、進学率も、たいへん高くなりまして、勉学の意欲も高くなっておりますことは、まことに結構なことです。中には就学資金にお困りのかたも多いかと存じますので、奨学資金の貸付け月額もふやし、また特志家のご寄付による積み立基金条例をつくって、せっかくのご芳志を生かすことを、くふうしました。

かくして、わたくしども一生懸命りっぱな青少年育成に努力しようとしているわけでございますが今日の一部の大学生やあるいは高校生までも血気に、はやって無謀な行動に出る向きがある時代ですので、教育者はもちろん、一般おとなも適切な指導を十分、心得るべき時代に突入したと、こう考えております。

むすび

このような考えかたのもとに当初予算を編成いたしたわけでございますが、一般会計予算の総額四億四千六百五十九万三千円とし、昨年に比し、四千九百五十二万六千円の増で一二・五パーセントの伸びになっております。

昨年度の当初予算の中には積立金を取りくずすというようなことで、福祉センター建設費が特別に入っておりますので、このパーセントだけでは実質の伸びと、ちょっと比較するのは適切でないかとも思いますが、前に申し上げましたような重点施策の具体化によりまして、この重大な年、一、九七〇年代の当初の本町予算として、本町の環境の整備をなし、内容の充実をはかりながら、本町の発展と町民の福祉を進めるために、最大の力を傾注してまいりたいわけでございます。私は行政水準を高めて行くことを、ぜひ必要だと考えるわけでございますが、これがためには実務に当たる職員の待遇改善を可能な範囲で具体化し、少しでも落ち着いて働けるように仕向け、各部課、あるいは職場が、いっそう明るく積極的に活動して町民に奉仕できるようにしたいと考えます。

もちろん、財政的には放慢にならぬよう、あくまでも健全財政を堅持しつつ効率的に、必要箇所に対しては前向きに資金は投じて行き、大きな変転をなす四十五年度の本町の行政を運営してまいる所存でございます。

〈各　論〉

つぎに各論に入ります。

歳出

歳出から順を追って、ご説明申し上げます。

▽議会費

議会費として千二百五十四万五千円で昨年に比し百七十四万四千円の増であります。人件費および一般経費であります。

▽総務費

総務費として予算額一億四百四十四万四千円で総予算の二三・三九パーセントになっております。昨年度に比し二千九百九十九万五千円の増となっております。一般経費その他、町有林の管理費を計

上しておりますが、今年度からは町有林の管理について、従来のやり方と多少方法を変えた方がよかろうと考えて、森林組合で労務者を確保して、その待遇改善を考えたわけでございます。

▽民生費

民生費においては、予算額二千六百二十二万二千円、総予算の五・八七パーセントで、昨年の五千百六十五万円から考えて減になっておりますが、これはご承知のとおり、昨年度は福祉センターの建設費が入っていたわけで、ございます。

社会福祉総務費、報償費のうち敬老年金は昨年に比し、二十一万四千円の増でございますが、これは先ほど申し上げました条例改正にもとづくものでございます。

児童福祉総務費等のうち、扶助費の十八万円を計上しておりますが、これは新しく設けます児童手当でございます。支給の対象は四人以上、ひとり年六千円を支給したいと考えております。

福祉センター運営費に四百二十五万五千円を計上いたしましたがこれは、ご承知のとおり暖房施設がございませんので、これに二百万円と維持費を考えたわけでございます。

▽衛生費

衛生費は二千五百四十一万一千円で五・六九パーセントを占めておりますが、昨年に比して七百七十七万二千円の増でございます。

施政方針を説明する曽木町長

▽労働費

労働費は三千五百七十三万九千円で八パーセントを占めておりますが、昨年に比し六百五万三千円の増でございます。

失業対策事業、本年度の吸収人員は延べ一万七千人で計画いたしました。計画のおもなものを申しあげますと、道路改良では田中線於里高井田線の二線、計百七十五メートル。アスファルト舗装では萩原線、春日線、西岩原線、須崎中福良線、吉原線、於里線、小山田線ほか四線、計二千二百九十四メートル。コンクリート舗装では中野線ほか四線、延長五百七十メートルと側溝（そっこう）暗きょ新設工事、日木山公園線ほか十一線延長八百六十五メートルを計画しその他、町内一円の道路補修を計画いたしました。国の補助を得て新年度ではトラック一台を買い替えする計画をたてております。

▽農林水産業費

農林水産業費は二千六百九万三千円で予算総額の五・八四パーセントを占めて昨年に比し二百五十七万六千円の増でございます。

むつかしい農業情勢の中で自立しようとする農家の意向調査を昨年、実施いたしましたので、これら農家に対しては経営技術の研修を十分になしまして、県のコンサルト協会の協力を得て、個々の経営診断を行ない、企業的農業の指導を行なうことにいたしまして、農業構造改善事業も完了したので経営指導を関係団体の協力を得て実施して行く考えでございますが今後は経営中心の研修を実施し、経営簿記の記帳を重点に指導して行きたいと思っております。

□

畜産関係について申し上げます本町の家畜頭数は、四十四年十二月末現在で、乳牛が百五十一頭、肉用牛が千六百六十二頭、豚が千六百八十一頭、鶏が七万一千九百五十羽、年間畜産粗生産額四億二千八百万円、農業総生産額の四〇パーセントを占めているようで、ございます。県有牛の貸付事業も取入れて、各大字別に導入し、昨年で一応、終了いたしましたので本年は、これら導入家畜の保健管理指導に重点をおくつもりでございます。

また、多頭羽飼育については、すでにお聞きのとおり、公害も発生する心配もございますが、今後は適当な時期に協議会をつくって対策を指導して行きたいと考えております。

□

農地費については、昨年に比し九十三万四千円の増でございます農道、用排水路の整備をいたしまして極力、県単土地改良事業を取り入れ、農道、用排水路の整備をしたいと思います。

また、先ほど申し上げましたように西別府、小山田を横断する農免道路は四十六年度に実現するよう諸準備を整えて、ただ今のところでは見とおしが、だいたいつく積りでございますので、測量設計に要する経費を計上し、受益者ともよく相談し、四十六年度りっぱな道路の実現ができるよう、あるていどの見とおしもつきましたので、本年度で最後の努力をしたいと考えます。

□

地籍調査関係については、昨年に引続き実施いたしますが、今年で七年目になります。ことしは西別府地区三二〇ヘクタールの調査測量と四十四年度実施地区の面積測量を実施する計画であります。

□

林業関係については昨年に引続き、林地肥培事業を主体として、造林地の保育管理指導を進めてまいりますが、今年は森林事業計画の編成年度であるので、これによって町内の森林現況が調査できますので、これを基礎資料として個別台帳作製および拡大造林長期計画を作成して、町内森林の人工林率を高めることとし、また、特殊林産物および治山事業については計画的に事業を推進することにいたします。

□

水産関係については、造る漁業の指導に力を入れたいと思っておりますが、すでにご承知のとおり漁業構造改善事業による、加治木漁業協同組合の荷さばき所も、おかげさまで着工になりましたのでここを、またよりどころとして漁業の発展には漁協と協力しながら進めてまいるつもりでございます

□

商工関係については、先も申し上げましたが、昨年に引続き、商店街診断を実施し、本町の商業の実態を把（は）握することにつとめまして、交通運輸機構の整備に対処する本町商業の発展案を商工会等とともに推進していくつもりでございます。

□

観光関係については、須崎海岸が近年、県外からのお客さんも相当見えるようでございますし、海水浴、貝堀りなど、町外のお客さんには休む所もないようでございますので、休憩用テントを購入して、町観光協会ならびに町漁協と協力して観光客の誘致をはかりたいと考えております。

その他、街路樹等を整備し、町

の美化運動とも合わせて、太陽国体緑化に努力したい所存でございます。

▽土木費

土木費については、本年の予算額七千二百十九万八千円で、予算総額の一六・一七パーセントを占めておりますが、昨年に比し千七百二十三万円の増でございます。

市町村道整備事業として西別府線の改良を継続実施し、野中橋のかけ替えをいたします。中野線の改修、墓地公園事業の継続、県工事において加治木港線の舗装、空港関連道路、これは白石、論地、城線の新設改良、港湾の改修。公営住宅建設においては一応、一種住宅十二戸、二種住宅十六戸、計二十八戸を計画しております。

その他、補修班を強化して路面整備を積極的に進めて行きたいと考えております。

▽消防費

消防費においては、予算額一千六十九万六千円で二・四パーセントを占めておりますが、昨年に比し三百七万円の増であります。

本年は中央分団に消防車の購入をしたいと思います。ご案内のとおり、その大きな火事ではございませんが、今防火週間にもかかわらず、あちこちで、いろいろな事故が発生しておりますし、また住家等もふえてまいりまして、ぜひもう一台配備したいと考えております。その他、訓練手当等の増額をいたしております。

▽教育費

教育費について申し上げます。本年の予算額は九千四百九十二万九千円で二一・二六パーセントを占め、昨年に比し二千六百八十四万七千円の大幅な増額であります一般経費のほかに錦江小学校の屋体改増築工事の計画をいたしております。これについては先般来、教育長とともに文部省、あるいは県などとも、いろいろ折衝を続けておるわけでございます。ならびに公立幼稚園の設置に要する園舎新築事業や幼稚園運営管理者の経費、その他、教育内容の充実、整備を期するために、教育機器や児童の体位向上に伴う机、腰掛けなどの整備について十分、考慮して増額することにいたしました。

また、社会教育、ならびに社会体育の面についても、先ほど申しあげましたように、いっそう努力をするつもりで、予算を計上いたしております。

▽災害復旧費

災害復旧費については二百九十八万一千円で昨年に比し二百三十万五千円の増でございます。

土木災害については、四十四年災の査定決定分で四十四年度に施行指定のございませんでした西別府線ほか二件と単独災害分を計上しました。

農業用施設災害復旧については四十四年度発生の災害復旧は、約九〇パーセント終了いたしましたので本年度は、農地復旧四地区を債務負担行為をなして施行したいと思っております。

▽公債費

公債費は本年度償還額三千二百三十五万四千円を計上いたしました。

以上で歳出を終わります。

歳入

つぎに歳入について、説明いたします。

▽町税

町税の総額を一億一千六百十二万八千円を見込んで計上いたしましたが、これは前年度に比して一千七百四万五千円、一六パーセントの伸びでございます。

伸びのおもなものは、町民税の七百二十八万七千円、固定資産税の六百五十四万九千円、たばこ消費税の百七十六万九千円で、町民税は個人、法人の所得の伸びと、固定資産税は評価と新増家屋の伸び、それから、たばこ消費税は自然増をそれぞれ予想して計上したわけでございます。

一方、都市計画税の三十四万二千円の減収は、区域の縮少をいたしまして税率の改正をすることといたしましたために減収となり、また、評価替えによっては増となったわけでございますが、その相殺によって、減収となったものでございます。

▽地方交付税

つぎに地方交付税でございますが、一億八千四百万円を計上いたしました。昨年の当初に比し三千三百万円の増でございます。

四十四年度の実績で申し上げますと、し尿処理場建設関係の交付税を差し引きまして八月算定の普通交付税は一億五千百三十八万六千円であります。これに特別交付税の九百二十七万四千円を加えますと、一億六千六十六万円となります。この実績から一四・五パーセントの増を見込んだわけでございます。

▽交通安全対策特別交付金

交通安全対策特別交付金は六十一万六千円。

▽分担金負担金

分担金、負担金は、保育所の負担金ならびに農林水産業施設災害復旧の分担金で使用料、手数料、千七百九万六千円は条例に基づく福祉センター、浴場、ホイルトラクター、道路占用、住宅、幼稚園保育料、じんかい収集手数料および住民課の窓口で取り扱う諸手数料、その他でございます。

▽国庫および県支出金

国庫支出金五千四百五十万一千円。

県支出金の一千八十一万一千円は、それぞれ事業に基づく額を計上しました。

▽財産収入

財産収入は百四万六千円で、土地建物の貸付収入、配当、その他になっております。

▽寄付金

寄付金の百六万九千円は、育英奨学資金百万円、その他でございます。

▽繰越金

繰越金の二百二十五万三千円を見込みまして、諸収入を二千八百九十二万四千円見込んでおります

▽町債

町債の二千二百九十万円は、四十五年度事業で、起債対象となる事業の全部を対象として、年度の充当率で見積り計上いたしました

―○―

本町の長期振興計画の予定も、着々できつつありますが、長期の展望に立った財政計画を確立し、事業の推進を計りたいと思っております。

これで一般会計の説明を終わります。